



平成22年11月26日

平成22年度日本学校保健学会賞受賞

<概要> 日本学校保健学会の学会誌「学校保健研究」第51巻、77-89頁、2009年に掲載されました「中学生における『ネット上のいじめ』に関連する心理社会的要因の検討」で、平成22年度日本学校保健学会賞を受賞しました。本研究では、以下の結果が明らかになりました。過去3ヶ月間に「ネット上のいじめ」を経験した中学生は、30.1%に達しました。「ネット上のいじめ」の経験者率は、女子の方が男子に比べて高い傾向が見られました。「学校への適応」「道徳観」「保護者の関心」の低さ及び「身体症状」の多さと「ネット上のいじめ」との関連が見られました。本研究を含む基礎研究を基盤にして、青少年のいじめを予防し心の健康を育む心理教育的プログラム、心の健康教室“サクセスフル・セルフ”を作成し、小中学校・特別支援学校等で実践しています。

<本文>

- 日本学校保健学会の学会誌「学校保健研究」第51巻、77-89頁、2009年に掲載されました「中学生における『ネット上のいじめ』に関連する心理社会的要因の検討」で、平成22年度日本学校保健学会賞を受賞しました。
- 本研究では、以下の結果が明らかになりました。インターネットや携帯電話などの電子媒体を用いて、電子メール、チャットルーム、ブログなどによって、相手に屈辱感、恐怖感、無力感を与える「ネット上のいじめ」が新たなタイプのいじめとして急速に広がり、過去3カ月間に「ネット上のいじめ」を経験した中学生は、30.1%に達しました（被害のみの経験者9.7%；加害のみの経験者6.8%；加害及び被害の経験者13.6%）。「ネット上のいじめ」経験者率は、女子の方が男子に比べて高い傾向が見られました。学校への適応、道徳観、保護者の関心の低さ及び身体症状の多さと「ネット上のいじめ」との関連が見られました。
- 本研究は、米国の学術雑誌「Journal of Early Adolescence」第25巻、268-297頁、2005年「Psychosocial influences on physical, verbal, and indirect bullying among Japanese early adolescents. (Ando, M., Asakura, T., & Simons-Morton, B.)」に発表しました中学生における「身体的いじめ」「言語的いじめ」「間接的いじめ」という3つのタイプのいじめに関連する心理社会的要因の研究を発展させたものです。この研究では、いじめを行う友達の数の多さ、攻撃性・衝動性に対する自己コントロールの弱さ、いじめの誘いを断る自己効力感、道徳観の低さが、3つのタイプのいじめに共通して関連していることが明らかになりました。
- これらの研究を含む健康を脅かす行動に関する心理社会的要因を検討する基礎研究を基盤にして、青少年のいじめを予防し心の健康を育む心理教育的プログラム、心の健康教室“サクセスフル・セルフ”を作成し、小中学校・特別支援学校等で実践しています。
- 本受賞に関しましては、平成22年11月27日、28日埼玉県坂戸市の女子栄養大学で開催されます第57回日本学校保健学会におきまして、表彰（11/27）、学会賞受賞講演（11/28）が行われます。

〈お問い合わせ〉

安藤美華代

岡山大学大学院教育学研究科心理・臨床学系教育臨床心理学講座

（電話番号） 086-251-7742 （FAX番号） 086-251-7742